千代野地区白山市ミライ会議

1. 会議概要

項目	内容
開催日時	令和8年6月20日（土）15:00〜
開催場所	千代野コミュニティセンター
参加者	8名（北星分団、千代野小・北星中 PTA、千代野小卒業生交流会、千代野スポーツ協会、千代野将来ビジョン改訂委員、主任児童委員）
主な議題	若い世代が見つける「地元の魅力」と伸ばし方から 1. 地域コミュニティの継承と参加促進 2. 地域の交流・活動拠点と子ども・若者の参画 3. 高齢化に伴う暮らしと移動手段



2. 主な議題と意見

（1）地域コミュニティの継承と参加促進





① 現状

- 緑が多く、安全な通学路や見守り活動、祭りなどの地域行事があり、安心して暮らせる環境や住民同士のつながりが千代野地区の魅力となっている
- 地区人口は約 5,200 人で、70 歳以上が約 3 分の 1 を占め、ここ 12 年間で約 600 人減少しており、地域活動を支える世代の高齢化が進んでいる
- 現役世代は仕事や子育てで忙しく、地域活動に参加するきっかけや、地域の情報を知る機会が少ないとの意見があった

② 課題

- 見守りや地域行事などの地域活動を次の世代へ引き継ぐとともに、人口減少に応じて活動のあり方を見直す必要がある
- 現役世代が気軽に交流・参加できる機会や、若い世代にも地域情報が届く仕組みが必要（いつでも少しでも関われるライトな関わり）

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 地域活動を次の世代へ継承するとともに、人口減少を踏まえ、活動をより気軽に取り組める形へ見直すことも必要
- 情報をいかに届けるかが課題であり、現在、アプリを活用した電子回覧板についてアンケートを実施している

（2）地域の交流・活動拠点と子ども・若者の参画





① 現状

- コミュニティセンター（地域コミュニティ組織事業）の「ちよぴよひろば」には多くの親子などが参加しており、気軽に交流できる場への需要がある一方、地区内の集会所は利用しにくいとの意見があった
- 千代野小学校は地域行事の会場としても利用されているが、外部トイレの老朽化など、幅広い世代が利用する上での課題が指摘された
- 子どもや若者の意見を地域づくりに反映する機会が少ないとの意見がある一方、中学校では地域との意見交換などの取り組みも進められている

② 課題

- 交流・活動拠点の充実を図るため、住民が気軽に集まれる場所を確保するとともに、学校を含む既存施設を利用しやすくする必要がある
- 子どもや若者が地域について意見を出し、地域づくりに関わる機会をつくることが、将来の担い手づくりにもつながるとの意見があった

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 学校の空き教室を地域の交流場所として活用することについて、教育委員会とも調整する
- 千代野小学校は令和 12 年度から長寿命化大規模工事を予定しており、外部トイレについても検討する
- 子どもや若者の地域活動への参画は有意義であり、今回の意見も学校の改良工事などの参考としたい

（3）高齢化に伴う暮らしと移動手段





① 現状

- 千代野地区では 70～80 代の人口が多く、今後の運転免許証返納などを踏まえ、高齢者の移動手段について意見が出された
- 「めぐーる」は、利用したい時間に便がないことや、買い物・通院などに利用しにくい場合があるとの声があった

② 課題

- 運転免許証を持たない高齢者が、買い物や通院など日常生活に必要な移動を行える手段の確保が必要
- 高齢者の生活を支えるとともに、高齢世代が担っている地域活動を次の世代へ継承していく必要がある

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 高齢者の移動手段は市内全地域で課題となっており、「めぐーる」の増便には運転手不足などの課題がある
- 千代野地区は路線バスが通っており、また、近くに鉄道駅もあるので、双方を利用いただくこともよいかと思う
- 少子高齢化になっていく現実の中で、事業の見直しやみんなでもっと気軽にやるというような、スマートシュリンク（賢く縮む）も必要になってくる

---

3. まとめ

千代野地区は、令和元年度に町内会連合会において「千代野将来ビジョン」を策定し、取組を進めながら、住民の意向や考え方を把握するために中学生以上全住民アンケート調査を実施し、ニーズや状況の変化に合わせ見直しを行い、また、若い世代の地域活動への参加に繋げるため、子どもとその保護者が参加できる防災イベン

トや地区外の機関やスタッフと連携・協力した新しいイベントを開催するなど、高齢化が進む地元町内会の負担を減らす工夫を進めている地区です。

　今回のミライ会議では、安全な住環境や地域のつながりなどの魅力を再確認するとともに、人口減少・高齢化を踏まえ、「地域コミュニティの継承と参加促進」「地域の交流・活動拠点と子ども・若者の参画」「高齢化に伴う暮らしと移動手段」について話し合いました。

　市としましては、電子回覧板、学校施設の活用・改修、子ども・若者の参画、高齢者の移動手段など、すべてをすぐに実現することは難しいものの、地域住民が自ら地域の未来を考え、話し合うことが重要であり、行政も地域と相談しながら改善につなげていくことを確認しました。

